

## 中間とりまとめに向けた骨子 (第4回検討会時点案)

### 第1 検討の趣旨・背景

#### 1 検討会概要

- (1) 検討会の設置趣旨
- (2) 構成員
- (3) 検討事項

#### 2 各回開催概要

- (1) 第1回
- (2) 第2回
- (3) 第3回
- (4) 第4回
- (5) 第5回
- (6) 第6回

### 第2 これまでの取組と現状

#### 1 交通系ICカードの普及

- ア 交通系ICカードの普及に向けた取り組み
- イ 片利用の推進
- ウ 現状

#### 2 日本版MaaSの推進

ア 新たなモビリティサービス懇談会

イ 新モビリティサービス推進事業

ウ 国における取組

エ 民間における取組

### 3 多様なチケットング手法の登場

#### (1) 事業者における取組や将来構想

ア 構成員における取組

イ ・ ・ ・ ・ (東日本・大手鉄道事業者)

ウ ・ ・ ・ ・ (西日本・大手鉄道事業者)

エ ・ ・ ・ ・ (東日本・地域鉄道事業者)

オ ・ ・ ・ ・ (東日本・大手バス事業者)

カ ・ ・ ・ ・ (西日本・大手バス事業者)

キ ・ ・ ・ ・ (西日本・地方バス事業者)

#### (2) 事業者におけるニーズ

(3) 利用者におけるニーズ

(4) 手法に応じたユースケースや長短

(5) 制度上の取扱

ア 鉄道におけるチケットの扱い

イ バスにおけるチケットの扱い

ウ 航空におけるチケットの扱い

### 4 リアルタイムデータ利活用場面の多様化

#### (1) 交通事業者のニーズ

#### (2) データ利活用事業者側におけるニーズ

(3) 一般利用者のニーズ

(4) 事業者における取組や将来構想

ア 構成員における取組

イ . . . . (東日本・大手鉄道事業者)

ウ . . . . (西日本・大手鉄道事業者)

エ . . . . (東日本・地域鉄道事業者)

オ . . . . (東日本・大手バス事業者)

カ . . . . (西日本・大手バス事業者)

キ . . . . (西日本・地方バス事業者)

(5) 国等における取組

ア GTFSについて

イ 混雑情報提供について

ウ 公共交通オープンデータ協議会

5 海外や他分野の事例やその概況

(1) 海外事例

ア チケッティング等に関わる動向

イ 動的な運行情報等に関わる動向

ウ その他、関連する海外動向

(2) 他分野事例

ア 分野間データ連携基盤

イ 物流・流通 (JANコード、EPCIS等)

ウ 銀行・決済 (銀行API、QRコード決済等)

エ 観光

オ 航空

カ その他、関連する動向

### 第3 将来的に想定される懸念と望まれる絵姿

#### 1 現状想定される課題や懸念

##### (1) チケット팅手法の多様化に伴う連携方法のあり方

ア 手法間の連携の必要性

イ モード間の連携の必要性

ウ エリア間の連携の必要性

##### (2) リアルタイムデータの連携体制のあり方

ア 同一モードにおける連携の必要性

イ モード間の連携の必要性

ウ エリア間の連携の必要性

エ 交通事業者におけるリアルタイムデータの整備・活用状況

オ 交通事業者における外部提供に向けた状況

カ データ利用事業者側における課題

#### 2 協調領域と競争領域について

##### (1) ガイドラインにおける考え方

ア 協調的データと競争的データ

イ MaaSプラットフォーム

ウ チケット팅に係るデータの扱い

エ リアルタイムデータの扱い

##### (2) 他分野における取扱

(3) 総論

(4) チケットにおける要素の分類、考え方

- ア 基本的な考え方
- イ 備えるべき情報（利用可能区間、有効期限など）
- ウ 券面（画面）表示

(5) リアルタイムデータにおける要素の分類、考え方

3 検討の範囲

(1) 想定する期間と留意すべき社会情勢の変化

- ア 想定する期間
- イ 少子高齢化、人口減少の進展
- ウ スマートシティ
- エ デジタル通貨・決済 等

(2) 対象とする場面

- ア 利用者
- イ エリア
- ウ 上記の組み合わせた場面

(3) 対象とする領域

- ア チケット
- イ リアルタイムデータ

4 求められる絵姿

(1) 総論

(2) データ連携の高度化の意義、長短

- ア 利用者側からの視点

- イ 事業者側からの視点
- ウ エリア・モード毎の視点

(3) 実現の絵姿

第4 絵姿を見据えた場合の課題と留意すべき事項

1 チケットングに係るデータ連携体制・手法

(1) 想定される連携のパターンや方法

- ア 各事業者におけるチケットングのための仕組み
- イ 各社が保有するチケット管理システム・媒体管理システム同士を連携する場合
- ウ 共通のチケット管理システムを使用して連携する場合

(2) 連携が必要となるデータ

- ア チケット情報
- イ 媒体情報

(3) 必要となるシステム要素

- ア チケットを販売するためのシステム（アプリケーション・Webサイト・券売機・窓口端末等）
- イ チケット管理システム
- ウ 媒体管理システム
- エ 改札・端末

(4) 不正利用対策

- ア 本人認証（基礎認証と利用時・乗車時認証等）
- イ 基礎認証

ウ 利用時・乗車時認証

エ チケット情報の管理（有効時間の設定、無効化処理など）

オ 利用の管理（利用通知、不正利用検証など）

(5) システムの安定性

## 2 リアルタイムデータに係るデータ連携体制・手法

### (1) 連携が想定されるデータの内容

ア 位置情報

イ 遅延・運休情報

ウ 混雑情報

エ 出発／到着予測情報

### (2) ユースケースとそれに応じたデータの取扱

ア 想定される活用シーンと必要なデータ

イ 日常的な利用シーン

ウ 通常時と災害などの異常時における取扱い

### (3) データの連携体制について

## 3 セキュリティや個人情報等への留意

### (1) システム構成上の工夫

(2) 関係者、システムに求められるセキュリティ対策

(3) 個人情報、プライバシーへの配慮

## 第5 検討すべき論点や方向性

### 1 官民の役割、取組の優先度について

ア 都市部／地方部、地域毎、企業体毎

イ 技術的な難易度

ウ 体制整備の状況

## 2 今後について

(1) 共通化等が望まれる部分について

(2) WG等による議論の継続が望まれる部分について

(3) その他今後期待される部分について